

2026年度 上田市立第六中学校 自己評価シート(中間報告)

学校教育目標		めざす生徒の姿(中期的目標)		総合評価
敬・和・創		敬:人を敬い、人から信頼される生徒 和:人を認め思いやり、人と協力して活動する生徒 創:自ら工夫し、納得するまで追究し課題を解決していく生徒		学校教育目標にも掲げられている生徒自らが課題を解決していく取組を意識した支援を大切にしてきた。各教科の授業においては、グループ活動を中心とする協働的な学びが活発に行われ、教師が一方的に教えこむ授業から、生徒たちが自ら学びとる授業への転換が図られた。教科学習におけるChromebook利用については、教師による差はあるが、個別最適な学びを進めるうえで、効果的なツールとして活用できている。また、日常生活に関するアンケートやリモートによる生徒会活動、各学年での課題提出等でも利用され、諸活動の効率化や業務のスリム化にもつながっている。 規範意識はある生徒は多い。さらにレベルを高めたい。場に応じた所作、服装など主体性や判断を大切にしながら、声をかけていく。家庭学習の在り方や、地域連携については、取組の状況に課題が見られる。家庭学習については、子どもたち自身が学ぶ楽しさを実感し、探究的な学びにつながるような意識づけを授業内で声をかけていきたい。また、地域講師による出前講座「地域公開参観」や各学年の総合的な学習などを活性化し、地域の一員としての自覚を持たせていく。
		1 敬	「一人となる」 周囲への配慮・感謝 役割と責任の自覚 ・明るく気持ちのよい挨拶 ・時間いっぱいの清掃 ・生徒会活動、係活動など自分の役割を自覚し、最後までやり遂げようとする姿	
		2 和	「絆」をつなぐ ・聞こえる声での発言、発信 ・人を思いやり、協力して活動する姿 ・心理的安全性のある「多様な居場所」の選択 ・対話を通じた協働、未知についての探究	
		3 創	授業・学習・各領域への粘り強く前向きな取組 ・ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びの実践 ・自分に向き合い、生き方を考える体験・学びの場 ・地域課題を分析し、自分事にして発信していく総合的な学習の時間	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題(7月アンケート実施) ※右の評価は職員アンケート結果から	A	B	D	E	今後の展望
教育活動	生徒指導	規範意識の育成	学校は身だしなみや学校生活のルールについて粘り強く指導しているか 職員は、生徒の規範意識を高めるために、自らの行動で示そうとしているか	身だしなみに関する生徒の規範意識はある。氣候に合った服装を自ら判断するように指導している。	13%	47%	40%	0%	校内生活のルールは引き続き周知すると共に、生徒の主体性や判断も大切に考えていく。
		素直さ・感謝の心を育てる	職員は、生徒の努力やがんばりを認め、あたたかい言葉がけをしているか	生徒と教職員との積極的なコミュニケーションが見られる。	53%	40%	0%	7%	子どもたちの意欲や自己肯定感が高まるような支援・声掛けを続けていきたい。
		開かれた学校・学級づくり	職員は、学級や生徒の良さを認め合い、互いの考えを発表しあえる共感的な雰囲気づくりに取り組み、楽しく、和やかな学校づくりに努めているか	職員が意識を高く取り組んでおり、学校を楽しんでいる生徒が増えていく。	47%	47%	0%	7%	学校生活アンケートや教育相談等も効果的に活用しながら一人一人の子どもたちへの理解を深めたい。
	学習指導	分かる授業	職員は、子どもの良さを引き出すための、問いのある、わかりやすい授業づくりに努めているか	「学習問題」「学習課題」「Today's Goal」、追究の見通しを明確にした授業展開をしている。	40%	53%	0%	7%	概ね、職員は授業の学習課題、問いを意識した授業づくりに努めており、今後も継続していく。
		集中して取り組む授業	職員は授業時間を守り、授業での追究方法を工夫し、一時間の授業に集中して取り組ませているか	各教科で職員は、教室でチャイムを聴き、授業をスタートさせられるよう、高い意識で取り組んでいる。	29%	71%	0%	0%	生徒が本時の学習の見通しを持ち、仲間と共に学び合える授業展開を工夫していく。
		家庭学習への支援	職員は、教科の専門性を生かし、生徒が自己課題を明らかにし、家庭学習への見通しが持てるような助言をしているか	家庭学習の必要感を感じながらも工夫して取り組んでいる生徒は少なく、受動的な家庭学習となりがちである。	36%	43%	14%	7%	各教科で家庭学習の取り組み方や、工夫をアドバイスするなど、学習を習慣化していきようにしたい。
		道德性の涵養	学校では、生徒が自己の生き方や夢の実現について考えたり学んだりする機会をつくりだしているか	進路学習を中心に、生徒が自分自身の生き方や将来について考える場面を、全学年で多く取り入れている。	20%	73%	0%	7%	多様な価値観に触れる機会や、対話的な学びおこす場面を大切にしていきたい。
	教育課程	歌声の響く学校づくり	職員は合唱に親しみ、歌う喜びを実感できる生徒を育てているか	音楽集会や文化祭における合唱発表会に向けた合唱練習など、工夫しながら合唱活動に取り組んでいるが、達成状況には差が見られる。	33%	47%	13%	7%	毎年9月に行われる文化祭での合唱発表会に向けた取り組みのほかにも、一年を通じて日常的に歌声の響く学校にしていきたい。
		不登校・不応生への支援	職員は生徒の困り感や特性を理解し、一人一人に寄り添って支援をしているか	それぞれの子どもの個性や多様性に寄り添いながら、適切な支援を進めることができる。	47%	47%	0%	7%	生徒たちの多様性に寄り添えるような学校と家庭との連携、持続可能な学び場、居場所づくりを今後も大切にしていきたい。
		人権感覚の育成	学校では、黄色いリボン運動・人権教育等を通して、生徒の人権感覚が高まる指導をしているか	黄色いリボン運動の経緯や各学年に応じた人権教育を通して、生徒の人権感覚が高まるように授業づくりを工夫して取り組んでいる。	27%	67%	0%	7%	生徒会活動や、人権教育で「黄色いリボン宣言」の意義を全校で共有しながら、全教育活動を通して今後も進めていく。
		生徒会活動	学校は生徒主体の生徒会活動となるように十分に支援しているか	生徒会役員を中心に全校生徒の声を生徒会活動に取り入れることができ、生徒会活動に充実感を得ている生徒は多い。1、2年の意識を高めたい。	20%	60%	13%	7%	子どもたちの主体性を大切に、生徒が自ら創る学校生活を目指し支援していく。
学校運営	地域連携	愛郷心の育成	学校では、地域への愛着を高め、地域との連携を深めるための工夫をしているか	「地域公開講座」として地域の方を講師に招き、生徒が楽しめる活動を取り入れることができた。総合的な学習では地域に目が向く活動を行っている。	27%	60%	7%	7%	「地域公開講座」参観を通じて、地域とのつながりを継続していく。各学年の総合的な学習でも地域との連携を深めていきたい。
		地域から信頼を得る	学校は、学校便り、学年・学級便りや学校ホームページ等を通して、学校の様子を丁寧に知らせ、学校への理解を深めてもらおうとしているか	タイムリーな話題提供を心がけ、多くの人に親しんでもらえるような情報発信をお便りやHPを通じて行うことができた。	47%	40%	7%	7%	学校HPで日々の学校の様子を随時情報発信している。引き続き、継続していきたい。学年通信等が家庭に渡るような工夫が必要。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった